

デーリー東北 2023年(令和5年)2月21日(火曜日) (2)

ブルーカーボン 「可能性大きい」

八工大研究所
青森で講演会



八戸工業大の地域産業総合研究所は20日、青森市でブルーカーボンに関する講演会を開いた。ブルーカーボンは、海藻など海の生態系が二酸化炭素(CO₂)を吸収する新たなCO₂削減対

桑江朝

ブルーカーボンの現状と可能性について語る桑江朝比呂理事長

20日、青森市

策として注目を集めており、吸収量をクレジットとして売買することによる地域振興策としても期待される。講演会には漁業や関連企業などから約50人が参加し、海で囲まれている地の利を生かそうと現状への理解を深めた。

ブルーカーボンは、海藻などが光合成などによって大気中から取り込み、吸収、固定化したCO₂由来の炭素。東北地方では、洋野町の藻場の保全活動がブルーカーボンとして専門機関から認証されている。

講演会では、ジャパンブルーエコノミー技術研究組合の桑江朝比呂理事長が国

内外の動向を解説。ブルーカーボンは、森林に蓄積される「グリーンカーボン」よりも吸収効率が高く、クレジットも高値で取引されているとした上で、「吸収量の把握などブルーカーボンの取り組みは難しい部分もある。地域一体で取り組み必要がある」と述べた。

八工大地域産業総合研究所の桐原慎二客員教授は八戸市沿岸でのマコンブ養殖の研究などを報告。「活動手法の確立や組織づくりなどに課題はあるが、ブルーカーボンの可能性は大きい」と強調した。(佐藤航)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。